

モノづくり現場の 担い手を育てる

経産省・産学連携
製造中核人材育成事業

⑬

試作産業を新しい現場産業に育成する試みが、京都で活発化してきた。日本総合研究所を調整役に、京都機械金属中小企業青年連絡会（機青連、京都市南区、075・933・2520）飛永製作所内、京都試作ネット、立命館大学が連携、試作に取り組む中小金属機械加工業者を中心に、現場の人材育成を目指す。求める人材像は、創

造性のある試作品や高精度の製品をつくる能力を持ち、経営全般やマーケティングに精通。加えて、企業・地域連携に熱意を持ち、コーディネート能

試作産業をモデル化

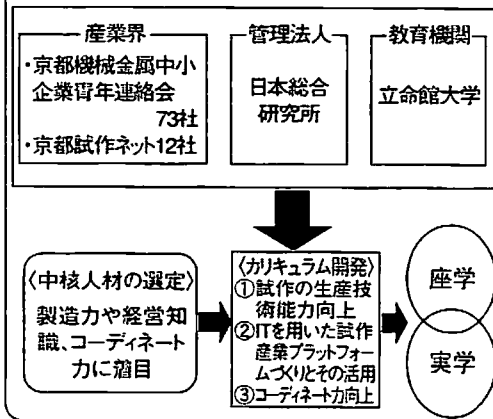
力を兼ね備えた人間だ。教育のカリキュラムは

立命館大学の教員がたたき台をつくり、機青連メ

日本総合研究所

ンバーら中小企業が意見を出して内容を固め、2年がかりで開発する。「机上のものではなく、

試作産業発展のための技術高度化と企業連携の担い手育成プロジェクト



中小企業が本場に活用できるものを開発していく（辻智之機青連副代表幹事）方針だ。カリキュラムには経営者の体験なども反映させる。実際の教育は、大学で行う座学と、企業の中に工房をつくって指導するなど実学をバランスよく配する計画。今月上旬、プロジェクト参画メンバーが初顔合わせし、試作産業の製造人材育成の対象を京都に限定しないことなどを確認した。このため「今回のプロジェクトをモデル化し、試作に取り組む全国の中小企業向けに展開したい」（同）としている。（おわり）